

1 学校教育目標

いちょうのようにたくましく 共に学び 共に遊ぶ

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童が基礎学力の定着を目指し、充実した学習活動が展開される学校 ○教育活動のあらゆる機会をとらえ、児童を心身ともに正しく鍛える学校 ○保護者が安心して子供を通わせ、地域の人が誇りに思える学校
○児童・生徒像	○意欲をもって学習し、学んだことを活かそうとする児童 ○目標に向かって粘り強く取り組み、自己肯定感のもてる児童 ○自他の生命・人権を尊重し、思いやりの心・豊かな感性・根気強さを身につける児童
○教師像	○授業を中心とした全ての教育活動に、真剣に、誠実に取り組む教師 ○不断の自己研鑽・自己啓発に励み、資質・能力および人格の向上に謙虚に努める教師 ○児童に豊かな愛情を注ぎ、児童と共に成長する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

[学校の現状]

○児童について

- ・明るく素直。係や当番、委員会の仕事に意欲をもって取り組む。家庭での生活に課題のある児童がいる。
- ・基礎学力の定着に課題のある児童がいる。授業改善や放課後の補習学習の時間の確保が必要である。

○教師について

- ・学級担任9名中4名が20代、専科を含め6名が初任校という状況である。若手は多いが学校を引っ張るリーダー的教員が少ない。若さによる活力があり、学ぶ意欲も高いが経験不足による未熟さは否めない。
- ・授業力や生活指導力を含め若手教師の資質・能力の育成が大きな課題である。

○保護者・地域について

- ・学校の方針及び教育活動に理解を示し、保護者や地域とも学校に大変協力的である。
- ・求心力のある会長のもと、PTA活動は熱心に行われている。学校・地域と連携して、子どもたちのために力を尽くしてくれている。

[前年度の成果と課題]

○基礎学力の定着

- ・小中連携による研究授業を4回（自校では5本）、校内研による研究授業を3回、若手研修組織「いちょう塾」の研究授業を年7回実施し、教師の授業力向上を目指した。また、諸会議の回数・内容を精選し放課後の補充学習の時間の確保に努めた。

区学力調査において、通過率は国語1.2ポイント低下し、算数1.1ポイント向上した（正答率では国語2.1ポイント低下、算数1.3ポイント向上）。学年差が大きいこと、二極化傾向にあることが課題と言える。「各学級あと1人通過」を目標に、個々の課題を分析し、朝学習や放課後学習等を通じて基礎・基本の徹底を図ってきた。

○心の教育の充実

- ・毎週の生活指導朝会でいじめに関する情報共有を強化してきた結果、重大ないじめは発生しなかった。不登校児童は減りつつあるが解消されていないことや、体調不良等をきっかけに学校へ来られなくなる児童が現れたことなどが課題と言える。家庭環境の難しい児童が多く、継続した対応が必要である。全校朝会・集会は毎回定刻に開始できた。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		29	30	31	32	33
1	学力向上（とくに国語・算数の基礎学力の定着）					
2	安全・健全文化の創造					
3	心身の健康の保持増進					

5 平成31年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上（基礎・基本の確かな定着）
A 今年度の成果目標		平成31年度区学力調査目標通過率と年度末の到達目標
○区調査において全学年で平均が国語・算数とも目標値を超える。		国語 80% 算数 80% 年度末復習確認テストにおいて 4月比 国語－5%、算数－10%以内とする。
B 前年度の取組み内容		
項目	具体的な方策	
○若手教師の授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・いちょう塾の研修会を25回、研究授業7回実施。 ・小中連携研究授業4回、校内研による研究授業3回実施。 	
○基礎学力定着のための時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習は毎週火・水・金に15分設定。年間110回超 ・放課後補充学習1回30分、各日2学年を週4回以上設定。 	
○教師の授業力格差の解消	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の授業観察や指導のほか教科指導専門員による授業観察、指導・助言を経験年数等に応じて軽重をつけて行う。 ・小中連携研修のほかに、校内独自でテーマを決め研究を行う。 	
○個別指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・SP表、ポートフォリオ等を有効に活用して個々の児童及び学級の実態を常に把握し個別指導に活用する。 ・スクールカウンセラーによる5年生の全員面接のほか、4年生、6年生とも全員面接を実施する。 	
C 前年度の成果と課題		
<p>[努めてきたこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員育成組織「いちょう塾」による研究授業を7回、研修会を年間25回実施した。また小中連携の授業研究を4回、校内研による研究授業を3回実施し授業力向上を図った。 ・朝の学習のうちの1回を読書とし、読書の習慣を付け、読解力の向上に努めてきた。 ・教科指導専門員と連携して7名の若手教員を中心に全ての教員の個別指導に努めた。 ・日々の授業観察のほかに、年間3回1単位時間の授業観察を行い、その都度指導に当たってきた。 ・そだち指導員と連携し、学力定着に課題のある児童の個別指導に努めた。 ・学力定着に課題のある2・3年生の児童に対し、クラブ・委員会の時間を活用して補習教室を行った。 <p>[成果と課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員の多くは足立スタンダードに基づいた授業を実施できるようになった。授業のスタイルや指導案をこなすことに精一杯で、ねらいに基づいた発問や子どもの発言を活かす助言、集団検討の場面での話し合いの活性化が十分でない教員がいる。 ・放課後学習の仕組みを整え、各学年の児童に対し全教員で組織的に対応できるようになった。 ・そだち指導により、学習に意欲が出た児童もいたが、テストの結果など客観的な成果が見られない児童もいた。 ・学力低位の児童を対象に放課後補習教室を毎週実施したことで、前学年までのくり上がり・くり下がり、かけ算九九、漢字、読解など定着しつつある。内容を吟味しより効果を実感できるようにしていく。 ・読解力に課題があり、文意を正しく理解し解決に結びつける力が弱い ・児童理解、生活指導の面で十分に指導できない場面があった。 		
D 今年度の目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
別紙 「平成31年度 学力向上アクションプラン」参照		

重点的な取組事項－ 2		安全・健全文化の創造（生命の尊重・人権の擁護・豊かな感性の涵養）
A 今年度の成果目標		達成基準
○全児童が安全で健全な学校生活を送ることができる。		・「学校関係者評価アンケート」健康・安全に関する設問で90%以上の評価。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
○安全点検の改善と充実	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の不備が原因となる児童の怪我をゼロとする。 ・アレルギー事故ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回教職員による安全点検を実施。 ・毎週金曜日に生活指導朝会を行い情報の共有化を図る。 ・養護教諭・栄養士を中心に、全教職員でアレルギー対応訓練を行う。
○思いやりの心を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価アンケートで「児童は学校に楽しく通っている」の肯定的回答90%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、校長によるあいさつ指導を実施。 ・地域の象徴である五色桜の授業を通し生命・自然・郷土を愛する気持ちを育てる。 ・いじめ防止・対処授業の実施 ・いじめアンケートの実施 ・個々の課題を共有するため、4年生以上SCによる全員面接を実施する。

重点的な取組事項－ 3		心身の健康の保持・増進（意欲と自信をもたせる。体力の向上）
A 今年度の成果目標		達成基準
○児童が毎日元気に登校し、活気に満ちた学校生活を送り自己肯定感を高める。		<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童を解消させる。 ・年間の無遅刻・無欠席を30%以上とする。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
○健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年でオリンピック・パラリンピック競技に関連した運動に取り組む。 ・不登校児童をゼロとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を基にオリンピック・パラリンピック教育を推進し、生涯にわたって運動を楽しもうとする意欲を培う。 ・SCや外部機関と連携し、不登校児童への面談、家庭訪問を定期的に行う。
○食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士による栄養指導を全学年2回以上実施。 ・給食残菜率1%台を維持。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食指導時に栄養士が学級に入り直接指導する。 ・もりもり給食ウィーク、お箸ウィーク、オリンピック給食等を活用し、食に対する関心を高め感謝する心を養う。
○基礎体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体力調査の結果を向上させる。 ・投力を4月時から10%向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の体育の授業の改善・充実及び各種体育的行事への取り組みを充実させる。 ・なわとびタイム（毎週）、マラソントime（冬季）を実施し、運動習慣を身に付けるとともに体力向上に資する。 ・チャレンジ週間（10日間）を設定し、多様な運動に挑戦できる機会とする。 ・投力向上週間を設定し（4月、6月、2月）、投力に特化した運動を行う。